

第12回兔原祭が開催される!

5月17日(金)、18日(土)、第12回兔原祭が開催されました。予報の時点では天候が危ぶまれていましたが、2日とも見事に晴天。「SPARK」というテーマで、今年も在校生が教室での企画やステージ、アリーナで大躍動し、終始母校の魅力が詰まった素敵な2日間となりました。

また、2日間で4,000名近くの一般来場者が兔原祭を訪れました。母校への入学を検討している「未来の中等生」が教室での企画に行列を作っている様子見られるなど、在校生のパワーに魅了されていたように感じました。



実行委員長より

この度、第12回兔原祭実行委員長を務めさせていただいた岩田智則と申します。今回の兔原祭では、これまでの先輩方が築き上げてきた運営体制を受け継ぎつつ、来場者の満足度向上に注力しました。来場者の方の目線に立って、より兔原祭全体が盛り上がり活況を呈するように設計しました。その結果、屋外ステージの背景装飾や見やすいマップの設計、装飾などによる目を引く学校全体のレイアウトなど、運営面のみにとどまらない兔原祭を作り上げることができたと思います。また、外部団体による食品販売も、7団体の誘致を成功させるなど、来場者の満足度を更に向上させつつ、生徒の負担を軽減させることを心がけ、1つ1つの企画の質が向上するようにしました。

第12回兔原祭を無事に成功させることができ達成感を実感している一方で、より良い兔原祭へと繋げていくことの重要性も深く実感しています。まだまだ歴史の浅い兔原祭ですが、だからこそ、毎年新しい試みと改善を重ね、兔原祭はアップグレードしていきます。ぜひ来年の兔原祭にもご期待ください。

これにて第12回兔原祭実行委員会からの挨拶とさせていただきます。今後とも兔原祭へのご支援とご愛顧をよろしく申し上げます。ありがとうございました。





今年もホームカミングデイを開催！

昨年に続き、今年も兔原祭 2 日目にホームカミングデイを開催しました。8 回生の三宅さんを中心に教室の装飾を昨年度からパワーアップさせ、さらに今回は附属中学校時代の卒業アルバムも展示するなど、多くの卒業生が楽しめる空間となりました。附属明石、住吉の卒業生を含め約 120 名の卒業生に足を運んでいただきました。ご参加いただいた卒業生の皆さん、また寄付にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。ぜひまた来年のホームカミングデイでお会いしましょう！

齋木先生が新校長に！

今年度の 4 月 1 日付で、前副校長の齋木先生が校長に就任されました。齋木校長より卒業生の皆さんにメッセージを頂きましたので、ご覧ください。

新校長よりご挨拶

卒業生のみなさん、体調に問題なくお過ごしでしょうか。2024 年 4 月より校長の係をしている齋木です。

明治以来、附属学校園の校園長は管理機関の教員（戦前は師範学校教員、戦後は大学教授）が務めてきました。5 年ほど前から、大学教員ではない者が校園長を務める学校が出始めました。といっても、文部科学省がそのような規則を制定したわけではありません。各大学に、「ガバナンスを考慮し、どのような運営体制がいいのか、よく考えましょう」という声をかけたところ、神戸大学は今年度より大学教授が校園長を務めることを辞めてしまいました。全国の国立大学のなかで、教員養成系でもなく、教職大学院でもない大学としては初めてのことです。この結果、本校は 4 月から、校長 1 名・副校長 1 名の体制で再出発しています。参考までに全国中等教育学校で、副校長（教頭）が 1 名は本校だけです。

このような苦しい再出発ですが、卒業生のみなさんから在校生に伝わる校風がますます洗練されています。その校風に憧れて本校で学びたい児童、本校で学ばせたい保護者が多数いてくださり、ありがたい限りです。創立 30 年を迎える 2029 年頃には、中等教育学校卒業生の子どもたちが入学するかもしれませんね。卒業生のみなさんが子どもたちを入学させたい学校であるよう、これからも教育活動を進めていきます。母校への応援、よろしくお願いします。



同窓会からお花をお送りしました

部活動の今に迫る!

前回(第8号)ではコーラス部、男子テニス部、ESS部をピックアップしましたが、今号ではASTAの活動を取り上げます。生徒が主体となって、科学技術などの興味のあることを日々研究している様子を紹介します。

ASTA

こんにちは。2021年度から2023年度までASTAの座長を務めておりました、10回生前野、稲岡、11回生西岡です。今日はこの場をお借りしてASTAという活動について簡単に紹介させていただきます。

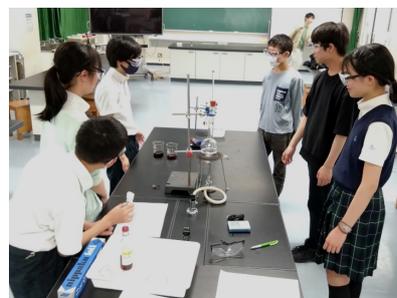
ASTAは、Advanced Science and Technology Academyを略したもので、生徒主体の科学探求コミュニティです。生徒会組織の下部組織として、2020年に設立されました。最初期は数学オリンピックに向けて、毎週1回昼休みに数学の問題を出し合うという集まりを行っていました。その後、数学だけでなく、より広い分野について、授業では扱われないような「発展的な学び」を生徒自らで行うコミュニティとして活動するため、新たに班長を募集し、様々な班を設立しました。

現在では、理系文系を問わず競技数学班、物理班、化学班、生物班、地学班、天文科学班、情報班、地理班、語学班、クイズ班、入検問題予想班が活発に活動を行っています。他の人との交流を通じて、より深い理解を得るということを目的としており、校外学習や外部でのワークショップ開催などを行っています。また、物理チャレンジ化学グランプリ・日本生物学オリンピック・日本地学オリンピック・日本天文学オリンピック・科学地理オリンピックなどの科学オリンピックや数学科甲子園や全国高等学校クイズ選手権といった外部大会に向けた対策を出場志願者で集まり、一緒に対策を行えることも活動の魅力であり、それらの科学オリンピックや外部大会では例年、メンバーが本選出場や入賞などの輝かしい成績を収めています。

その他、兔原祭やオープンスクールなどの行事の際には、実験ショーや本校の入学適性検査予想問題の配布、小学生向けのワークショップの開催など多岐にわたる活動を行っており、参加者・保護者などからも大変好評です。

2020年度から2023年度まで順に、118名、85名、109名、134名が加入しており、全校生徒の概ね6~7人に1人が参加しており、本校生徒に広く浸透している組織です。ASTAはこれからも、広義での「科学」を探究する場として、「迷ったら面白い方」をモットーとして活動し続けます。

卒業生の皆様もOBとしてASTAの活動にご協力いただければ幸いです。



化学班の実験の様子



オープンスクールでのASTA
生徒による模擬授業

2022年10月にサンテレビ『キャッチ+』の取材を受けました。放送された内容は、YouTubeで視聴可能ですので、ぜひ一度ご覧ください!

<https://www.youtube.com/watch?v=SBIWph4uArs>



卒業生だより

山野 真亜耶さん [中等5回生]

初夏の風を感じるようになりました今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

この度、『陽菊』に寄稿をする機会をいただきましたので先日行われた「Spring チャリティーコンサート-森瀬智子となかまたち-」の裏側を文章でお届けしてみようと思います。

2024年3月20日、西宮フレンテホールにて開催された「Spring チャリティーコンサート-森瀬智子となかまたち-」は大盛況のもと閉演することとなりました。お越しいただいた皆様におかれましてはお忙しい中誠にありがとうございました。なんだ、そのコンサート？と思われる方も多いと思うのですが、コーラス部元顧問である、皆様ご存じの森瀬智子先生が主催されたコンサートで、森瀬先生がメイン

となりたくさんの曲をお歌いになるという、我々コーラス部の歴史に残る初の試みの舞台でした。音楽の授業や合唱コンクールで先生の美声を聞いたことがある卒業生の方も多いと思うのですが、その先生がソロで何曲もお歌いになるという舞台は私たちコーラス部卒業生にとっても初めてのことだったのです。

実は、私もそのコンサートに少しお邪魔させていただきました。附属住吉中学校の卒業生であり、同じコーラス部の先輩である佐々木ひかる先輩や森桜子先輩（お二人ともプロの歌手として多数の舞台にて活躍されております）と、中等1回生の尾野佑一郎先生（現在、本校の音楽の先生とコーラス部顧問を務めてくださっております）、そして中等6回生の湊あゆみさん（東京藝術大学大学院に進学されプロのハープ奏者としていっそうの研鑽をされておられます）と“なかまたち”として同じ舞台に立つこととなり、初めはもちろん緊張しましたが、非常に良い経験をさせていただきました。

まず大きく感じたことは「舞台へのこだわり」です。先生はもちろん、共演者である先輩方の「舞台へのこだわり」は一般人の私には到底届かないレベルでした。細かい話になりますが例えばマイクをスタンドにするか、ハンドにするかといったこと一つをとっても音色や歌詞の響きに気を配り、細部までこだわるのです。美は細部に宿ると言いますが、そのような取り組みを通じて改めて音楽という形のない芸術に向き合うことの意味を感じたように思います。そして何よりも「人のつながり」に感謝する場面が多くありました。当日はコーラス部OGのスタッフが何から何まで手伝ってくれ、さらにはコンサートの目玉である「OGコーラス」には住吉中学校時代からの先輩がたくさん駆けつけてくださりました。もちろん会場には、コーラス部現役生や本校に務めておられる先生方も多く聞きに来てくださりました。何度か学校で練習をしていたこともあってか、ある先生は「練習の時から楽しみにしていた」と言ってくさったり、先輩の中には妊娠・出産の真っ只中にありながらも応援してくださ



Maaya Yamano

前・後期でコーラス部に所属し現在もOG合唱団エメロードに所属。オンライン学習塾事業も立ち上げ、日々奮闘中。



る方がいたり、やはり舞台というのは「聴いてくださる方々の想い」あってのものなのだなと改めて感じました。改めて支えてくださったみなさまに感謝いたします。

今回は、「Spring チャリティーコンサートの裏側」について、私の目線でつらつらと色々書かせていただきました。実はこのコンサート、3年プロジェクトで計画中です。そのため来年、再来年もシリーズ開催予定ですので、またお時間ありましたらぜひ気軽にお越しください。それではみなさまの益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



～同窓会からのお知らせ～

■ 本広報誌のバックナンバー：『陽菊-ひなぎく-』のバックナンバーを学校 HP に掲載していただいています。是非ご覧ください>> <https://www.edu.kobe-u.ac.jp/kuss-top/current/alumni/association/>

寄付のお願い

母校の教育活動の支援のため、寄付へのご協力よろしく申し上げます。

附属学校部 HP：<http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>



SNS で情報発信中！

Instagram、Xで同窓会関係の情報を発信しています！フォローお願いします



KUSS_ALUMNUS

@kuss_alumnus

中等生の活躍!!

■ ESS 部

PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会

ベストディベーター賞

フラワーカップ高校生英語ディベート大会

ベストディベーター賞 ほか

■ 男子テニス部

兵庫県中学生テニス選手権大会

兼全国中学生テニス選手権大会兵庫県予選

男子ダブルス 第2位

■ KP

中高生・スポーツデータ解析コンペティション-2023-

日本生態学会 高校生ポスター

日本水産学会春季大会「高校生による研究発表」

日本地理学会春季学術大会「高校生ポスターセッション」

日本物理学会 Jr.セッション 審査委員特別賞

JSEC (高校生・高専生科学技術チャレンジ)

システム制御情報学会 高校生ポスター発表セッション

大学教員が選ぶイチョウ研究賞 ほか

優秀賞

最優秀賞

優秀賞

理事長賞

優秀賞

学校 NEWS 短 信

オープンスクールが開催される

6月22日(土)、オープンスクールが開催され、教育活動や適性検査などの学校説明のほか、3ページで紹介した ASTA 生徒による体験授

業、ポスター発表などが行われました。オープンスクールも在校生が中心となって企画、準備を進め、兔原祭とは違った角度から未来の新生に附属の雰囲気や魅力を伝えることのできる貴重な機会になったようです。

先生だより

森田 育志 先生

卒業生のみなさま、お元気でお過ごしでしょうか。社会科(地理歴史科・公民科)の森田です。この度、毎号愛読しております同窓会誌の先生だよりへ執筆する機会をいただきましたので、若干ではありますが、これまでの思い出と近況を述べさせていただきます。

私は現在、4年生(13回生)の担任をしております。相変わらず、「ゴミ袋」の収集は継続しておりますので、附属にお立ち寄りの際は、寄贈していただけますととても喜びます。さて、附属での教員生活をふり返りますと、さまざまな思い出があります。4回生、6回生、9回生と担任をさせていただいただけでなく、これまでのすべての回生で授業を担当させていただきました。たくさんのユニークな生徒に囲まれながら、私自身も教師として成長させていただいたように思います。一緒に笑ったり、一緒に喜んだり、時には一緒に踊ってみたりと、たくさんの大切な時間を共有しました。そんな皆さんと学びをともにするなかで、私も何か挑戦したいと考えるようになり、現在、2つのことに挑戦しています。1つは「研究」です。みなさんの日頃の学び、そしてKPで論文を執筆する姿に刺激を受け、私も「ESDに関する研究」を始めました。最近、ユネスコが出した「平和・人権・持続可能な開発のため教育に関する勧告」の内容を解釈しつつ、それに基づく授業実践のあり方について、目の前の生徒とともに考えています。「ESD」というキーワードは、卒業生と私の授業を結びつけることばかもしれませんね。もう1つは、「マラソン」です。日頃のサイクルは次の通りです。①日々トレーニングを積み重ね、大会に出場し、実力を確認します。②足りなかった部分を日々のトレーニングで修正します。③修正の方向性が正しかったかを再度大会で確認します。この①～③のサイクルは、何となく勉強のそれにも似ているように思います。今年は、フルマラソンで「3時間45分切り」を目標としています。この目標を達成するために、朝は、JR住吉駅から学校まで約2kmの急坂を登っています。卒業生からのご助言も大歓迎ですので、ぜひ、ご教示ください。

附属は日々進化しています。卒業生からは、しばしば「学校の雰囲気が変わりましたね」という声を聞きます。たしかに、私が赴任した頃と学校の雰囲気は質的に変わったのかもしれませんが、「新しいことに果敢に挑戦する雰囲気」や「生徒同士での活発な対話・議論の雰囲気」は、脈々と受け継がれているように思います。これまでの卒業生が創造したものが、確実に後輩の学びの土台となっています。

また、機会がございましたら、附属にもお立ち寄りください。そして語り合いましょう。繰り返しになりますが、来校の際には、「ゴミ袋」を持参することも忘れないように。

【編集後記】

我が恩師(瀧本家康先生)に、ご自身の母校である国立(くにたち)高校の文化祭に連れて行ってもらってから約12年、4月からその国立での生活を満喫しています。休日は行ったことない場所へ赴いたり、乗ったことのない電車に乗ってみたり。日向坂は麻布十番の近くにあるんですね。

あと、4月に東京に異動された大谷アナウンサーは、5:00amからの『おはよう日本』に隔週で出演されています。こちらは東京でなくても視聴できますので、是非ご覧ください。(1回生小黑)

(次号は2024年9月30日発行予定です)



Ikushi Morita

2013年4月に着任、4回生を5年間担当した後、6、9回生を歴任。現在は男子バレーボール部の顧問を務める。